





【写真 左】紺糸威桶側鉾打鉄五枚胴具足（井伊美術館寄託）初代越前府中城主・本多富正所用と伝わる甲冑。鉾留の桶側胴に紺糸素懸威の草摺が十間、また七段下がりの壺袖が付く。胴の鉄板はごく薄く、全体に軽快な動きを重視しているようである。また金具等の装飾はなく、実用を重視した無骨な印象がある。

兜はいわゆる「雑賀鉢」の一種で、前立は失われているものの、鉢頂部に毛を植え付けて立てており、現代のパンクファッションにも通じるような際立った印象を与える。兜の制作時期は胴のそれよりも古いと考えられ、厳密には揃いの具足ではないが、実用本位の甲冑が盛行した江戸時代初期にはまみられる取り合わせである。胴裏に「越前国住/長曾祢/藤次郎/光正作」「元和八年壬戌三月吉日」と銘がある。長曾祢鍛冶は近江国を出自とする鍛冶集団で、江戸初期に福井に移住したとされる。刀工として有名な長曾祢興里（厩徹）も、もとはこの長曾祢鍛冶に属した甲冑師である。



【写真 右】烏帽子形南蛮兜鉢（当館蔵）平成五年に東郷中島町の白山神社の床下から発見された。腐食がはげしいが、打出した2枚の鉄板を中央ではり合わせて烏帽子のような形をとる兜鉢で、庇が前面だけでなく兜の全周をめぐる形状は、安土桃山時代に流行した、西洋の兜を模した「南蛮兜」の形状に類似する。

## 【展示資料一覧】

名称	由緒	銘など	時代	所蔵先
1 緋威鉄五枚胴具足	松平忠直（2代）大坂陣所用	胴裏銘：越前住長曾祢利光作 兜鉢裏銘：越前住長曾祢利光作	江戸時代初期	井伊美術館寄託
2 紺糸威二枚胴具足	松平忠昌（3代）所用	「入日記」に「明珍作」の記述あり	江戸時代初期	井伊美術館寄託
3 熏韋威胴丸具足	松平忠昌（3代）所用		江戸時代初期	越葵文庫
4 黒羅紗亀甲縫三枚胴具足	松平昌親（5代）所用		江戸時代前期	個人蔵 当館保管
5 魚鱗具足	松平吉品（7代） →松平吉邦（8代）	「御召料御具足并御秘密御道具」（松平文庫）に「鍛冶（明珍）小左衛門作・岩井勝右衛門仕立」	江戸時代中期	越葵文庫
5-2 魚鱗具足替袖			江戸時代中期	越葵文庫
5-3 魚鱗具足替類			江戸時代中期	越葵文庫
5-4 魚鱗具足休金具			江戸時代中期	越葵文庫
6 金小札緋威二枚胴具足	松平重昌（11代）所用 松平吉品（7代）所用、 松平齊善（15代）所用 の西伝あり		江戸時代中期	越葵文庫
7 茶糸威四枚胴具足			江戸時代後期	越葵文庫
8 桐崩紋骨牌札置具足	松平春嶽（16代）所用		江戸時代末期	福井市春嶽公記念文庫
9 黄唐茶糸威二枚胴具足	松平春嶽（16代）所用		江戸時代末期	福井市春嶽公記念文庫
10 白糸威陣羽織	松平春嶽（16代）所用		江戸時代末期	福井市春嶽公記念文庫
11 金小札紺糸威二枚胴具足	福井藩士多賀谷家伝来		江戸時代後期	個人蔵 当館保管
12 紺糸威鉾打鉄五枚胴具足	越前府中本多家伝来	兜鉢裏銘：越前国住馬免朝次作 兜鉢裏銘：弘前住明珍紀宗賢 面具裏銘：明珍宗布	江戸時代後期	井伊美術館寄託
13 紺糸威黒漆塗五枚胴具足	本多富恭（府中本多家8代）所用		江戸時代末期	井伊美術館寄託
14 紺糸威桶側鉾打鉄五枚胴具足	本多富正（府中本多家初代）所用	胴裏銘：越前国住長曾祢藤次郎光正作 元和八年壬戌三月吉日	江戸時代初期	井伊美術館寄託
15 龍自在置物（鉄龍小文鎮）	越前松平家伝来	伝明珍吉久作	江戸時代	越葵文庫
16 烏帽子形南蛮兜鉢	東郷中島白山神社伝来		桃山時代	当館蔵

## 次回の展示

企画展 西洋へのまなざしー越前松平家と欧米ー

平成28年2月3日（水）～3月16日（水）

展示解説シート No.93  
平成27年12月3日発行  
福井市立郷土歴史博物館  
〒910-0004 福井市宝3-12-1  
電話 0776-21-0489  
F a x 0776-21-1489  
担当：松村知也  
印刷 / 宮本印刷